

ポーランド グダンスク「日本文化紹介」

バルト海に面するポーランド最大の港湾都市グダンスク市では、毎年6月末に県立図書館で「コミックフェスティバル」が開催され、2009年と2010年にはトルン市のボランティアが日本のポップカルチャーの講演を行いました。また、2009年10月24日から2010年2月28日までは国立民俗博物館で「日本の着物展」が開かれ、そのオープニングセレモニーではウジ市のボランティアが茶道点前や着物の着付けを披露しました。さらにボランティアの配属先の一つであるワルシャワ市の「ポーランド日本情報工科大学」のグダンスク校などもあり、同市にボランティアは派遣されていないものの本プログラムとは縁のある都市です。ポーランドではこれまで様々な都市でイベントを行ってきましたが、日本文化に高い関心を持っていたグダンスク大学の講師が、イベント機会を通してJ-CAT活動やボランティアの地方都市での文化発信実績などを知り、同市にて日本文化を身近に学べる企画を準備し、実現に向けて積極的に手筈を整えました。

この結果、2011年2月4日（金）と5日（土）の2日間、市内4か所の会場で文化紹介を実施する運びとなりました。この出張には、華道師範代、茶道大円真許状、着付け助講師など高い資格と文化素養を持ち、なおかつ当国においても幅広い年齢層を対象とした文化紹介経験を蓄積しているクラクフ市のボランティアが対応することになりました。



体験稽古：いけばな

まずは小学校にて、6年生約150名に日本人の日常生活や高校生の様子を紹介しました。DVDで見る剣道の練習風景、原宿ファッション、ネイルアートなど子どもたちが関心を持ちそうな画像で現代文化も含めて伝えたことで、日本へのイメージが膨らんだ子どもたちからは次々と質問が寄せられました。こうしたテーマ選びが奏功するのは、ボランティアの経験が十分生かされた成果でしょう。日本を訪問したいという感想もあり、子どもたちにとって異文化の理解を深める第一歩となったようです。



体験稽古：茶道

大人対象の文化紹介は対象によって会場が3か所に分けられており、バルト通訳者協会関係者（中・東欧言語の専門通訳）対象に「着付け、書道、巻き寿司」、グダンスク商工会議所関係者に「生け花、着物」、一般市民に「生け花、着物、茶道」と、それぞれ異なる内容を講演、デモンストレーション、体験などを組み合わせて紹介しました。比較的人数が少ない会場では参加者一人一人に丁寧に対応し、人数が多い場合はパワーポイントを使用するなど実情に応じて紹介方法に工夫を凝らしただけでなく、現地語の説明文を事前に準備して臨むなど、参加者がより深く理解できるよう努力を惜しまず、また会場の移動を含む限られた時間を効率よく活用し、特技を発揮した文化発信を実施する活動の質の高さには本当に頭が下がります。

ボランティア1名の移動では、持参する荷物の量が限られてしまい、男性用の着物や子ども用の浴衣などを持っていくことができず、大人の女性以外が和服を実際に身につけることができなかったことは残念だったものの、書道を見たり、茶道や華道の道具を触ったり、薄茶の試飲や巻き寿司づくりで味による文化を感じたりすることができ、また解説、実演、稽古の体験が盛り込まれたこのような機会は珍しいことから、参加した全ての人たちにとって新鮮で貴重な体験となりました。